

移動手段が変われば 街が変わる

想像してみよう

Compact + Network

未来の高松市

Mobility Management Takamatsu



公共交通機関 検索サイトのご案内

J R 線・新 幹 線 JR四国 <http://www.jr-shikoku.co.jp/>
 Google検索 jr四国 路線・運賃・時刻表・きっぷ予約

ことでん〈電車・路線バス〉 ことでんグループ <http://www.kotoden.co.jp/>
 Google検索 ことでん 電車／路線・運賃・時刻表
 路線バス／路線図・運賃・時刻表

都 市 間 高 速 バ ス 発車オーライネット <https://secure.j-bus.co.jp/>
 Google検索 発車オーライ 全国高速バス路線／運賃・時刻表・バス予約

制作：高松市 市民政策局 コンパクト・エコシティ推進部 交通政策課



高松市

Railway



Light Rail Transit



Community Bus



高松市が目指す多核連携型コンパクト・エコシティ

日本は人口が減少し、少子・超高齢化社会へと移行しつつあります。高松市の状況も同じで、もはや樂觀することはできない差し迫った問題です。少子・超高齢化社会でも、将来にわたって持続可能な街づくりとは何か。その答えとなるのが「多核連携型コンパクト・エコシティ」です。

高松市では、郊外の土地開発により人口密度の低い、分散型の都市構造が進んでいます。分散したまま人口が減少すれば、空き地が増え、店舗の撤退や縮小が進み、利用者の減少によって公共交通が縮小し、税収の落ち込みにより行政サービスは悪化します。

高松市が目指している多核連携型コンパクト・エコシティは、市街地の拡大を抑制し、いくつかの拠点に人口と都市機能を集約する都市構造です。拠点での人口密度が高いため、店舗が活気づき、すべての世代が街で元気に暮らせます。公共交通網が整理されて利用が増え、行政サービスを集約できるため市の財政も効率化します。都市をコンパクトにすることで、少子・超高齢化社会でも、魅力あふれる都市が形成できるのです。



コンパクト・エコシティでは公共交通が主役

高齢後の自動車運転には、様々なリスクがともないます。そのため、少子・超高齢化社会では公共交通の充実が課題のひとつです。高松市が目指す多核連携型コンパクト・エコシティでも、公共交通を再構築し、誰もが移動しやすい環境を整えていきます。その施策の一貫として、新駅の設置やコミュニティバスの運営などに、すでに着手しました。また、公共交通ネットワークの再編や新交通手段(LRT:次世代型路面電車)の導入も検討しています。少し未来の高松市では、公共交通が移動手段の主役になります。



公共交通は不便。だから変えていきましょう

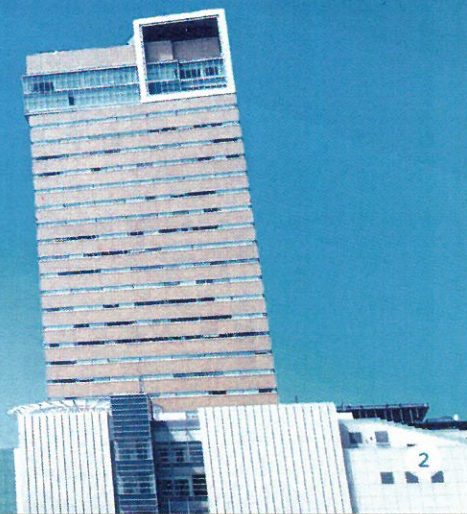
公共交通は車より不便だと感じている人が多いのではないのでしょうか。はい、現状ではそのとおりです。でも、みんなが使えば使うほど、より便利に変えていくことができるのです。

少しだけ未来の交通のことを想像してみてください。もしかしたら石油が枯渇し、ガソリン代が上昇。自家用車での移動が限られた人だけのものになっているかもしれません。また、年齢を重ねて自動車の運転そのものが難しくなっている人もいでしょう。そうなった場合、公共交通が不便な社会で豊かに暮らすことができるでしょうか。

利用者が増えれば増えるほど、公共交通は利用しやすくなります。つまり、みんなで育てることができるのです。今のうちから積極的に公共交通を利用しましょう。そして、自動車がある、公共交通もある、両方を当たり前のように選べる社会を継続していきましょう。

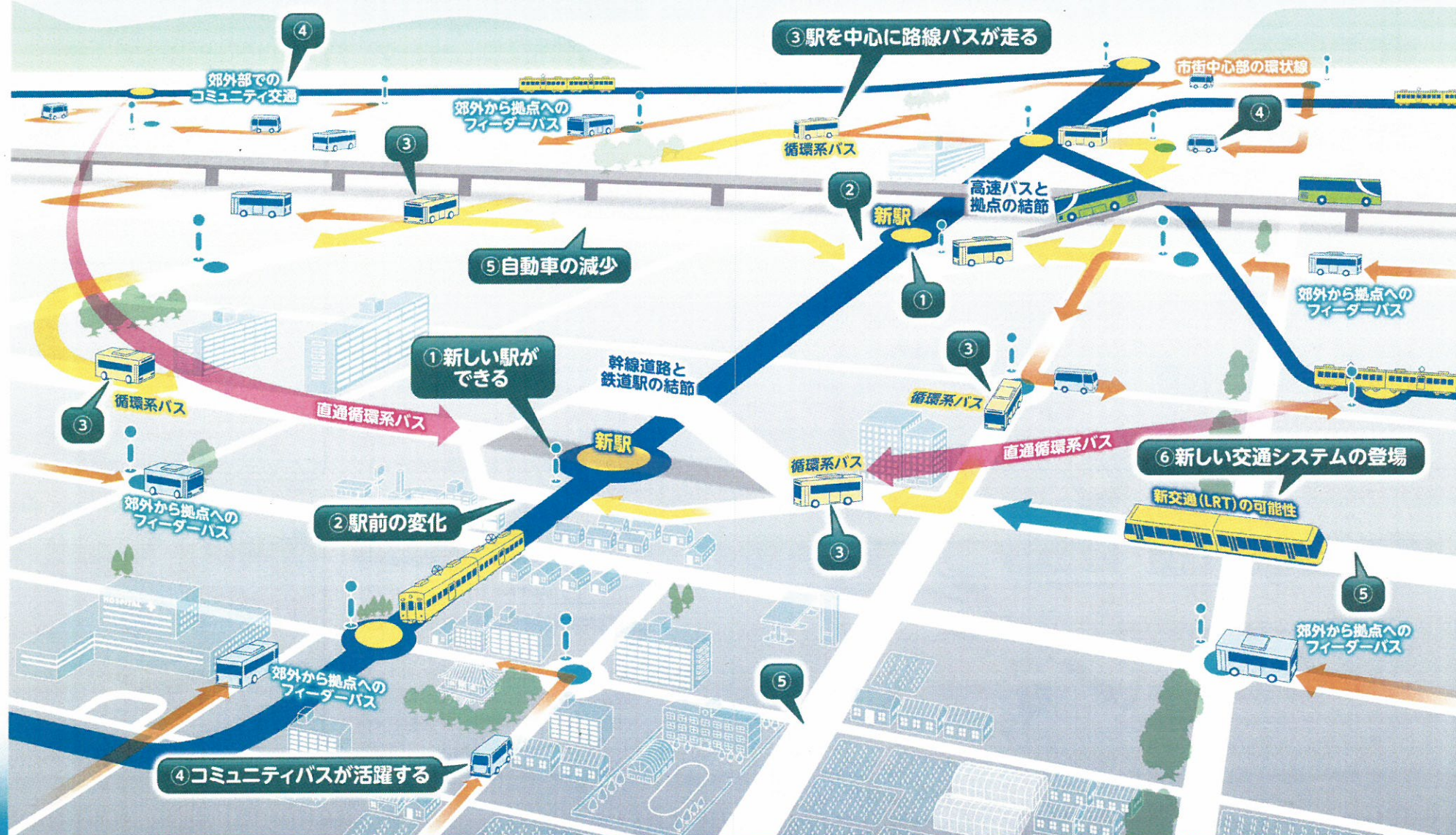
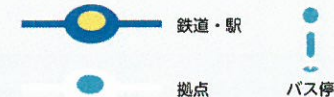
移動手段が変われば、街の未来が変わる

公共交通を維持・実現するための取り組みを「モビリティ・マネージメント」と言います。聞き慣れない言葉だと思いますが、「過度に自動車に頼る暮らし」ではなく、「公共交通や徒歩・自転車などを賢く利用する暮らし」を目指すことです。これからの持続可能な社会のために、市民ひとり一人が始めるモビリティ・マネージメント。あなたの移動手段が変われば、街の未来が変わります。



高松市未来予想図

何がどう便利になるの？ 詳しくは5ページ 6ページ



未来の高松市はここが違う

未来の高松市の想像図には、今の暮らしと少し違うところがあります。

公共交通が移動手段の中心となり、街の様子が変化しました。

未来の高松市のポイントを見てみましょう。

①新しい駅ができている



未来の高松市は、駅を中心とする街になっています。新しい駅が増えて、鉄道での移動がもっと便利になっています。駅の周りに、人も店も集まる、コンパクトな街になるのです。



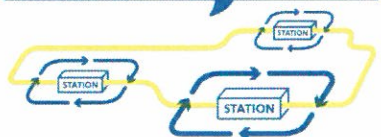
②駅前の変化



駅前が暮らしの中心地となります。バスのロータリーや自転車置き場などが整備され、店舗や会社、病院なども集まり、今よりもっと賑わう場所になっています。



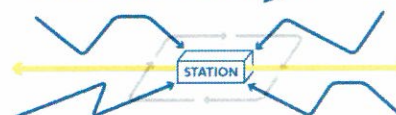
③駅を中心に路線バスが走る



駅を中心にして、路線バスや循環バスが街の中を走っています。付近に暮らす人は、賑わう駅前などへの移動や、通勤や通学にバスを利用するようになります。



④コミュニティバスが活躍する



離れた地域に暮らす人は、コミュニティバスを利用して、駅前などまで移動しています。コミュニティバスは地域のための小型バス。地域の人に合わせてバス停や時刻表を設定できるので便利です。



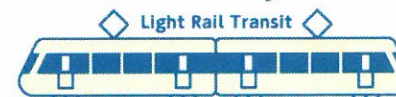
⑤自動車の減少



自家用車を利用する人が少なくなり、街を走る自動車が減少しているでしょう。悩まされていた渋滞が少なくなり、緊急車両もスムーズに移動できます。交通事故も減って、安全に暮らせるようになります。



⑥新しい交通システムの登場



公共交通を利用する人が増えれば、LRT(次世代型路面電車)のような新しい交通システムが導入されているかもしれません。LRTは専用の線路を走るので渋滞知らず。乗り降りがしやすいので高齢者にもやさしい乗り物です。





高松市

移動手段が変われば 街が変わる
お金が貯まる 時間を使える
スゴイぞ!! Compact + Network
エコ通勤

Mobility Management Takamatsu

公共交通機関 検索サイトのご案内

J R 線 ・ 新 幹 線 JR四国 <http://www.jr-shikoku.co.jp/>

Google検索 jr四国 路線・運賃・時刻表・きっぷ予約

ことでん〈電車・路線バス〉 ことでんグループ <http://www.kotoden.co.jp/>

Google検索 ことでん 電車／路線・運賃・時刻表
路線バス／路線図・運賃・時刻表

都 市 間 高 速 バ ス 発車オーライネット <https://secure.j-bus.co.jp/>

Google検索 発車オーライ 全国高速バス路線／運賃・時刻表・バス予約

制作：高松市 市民政策局 コンパクト・エコシティ推進部 交通政策課



Railway



Light Rail Transit



Community Bus



高松市が目指す多核連携型コンパクト・エコシティ

日本は人口が減少し、少子・超高齢化社会へと移行しつつあります。高松市の状況も同じで、もはや楽観することはできない差し迫った問題です。少子・超高齢化社会でも、将来にわたって持続可能な街づくりとは何か。その答えとなるのが「多核連携型コンパクト・エコシティ」です。

高松市では、郊外の土地開発により人口密度の低い、分散型の都市構造が進んでいます。

分散したまま人口が減少すれば、空き地が増え、店舗の撤退や縮小が進み、利用者の減少によって公共交通が縮小し、税収の落ち込みにより行政サービスは悪化します。

高松市が目指している多核連携型コンパクト・エコシティは、市街地の拡大を抑制し、いくつかの拠点に人口と都市機能を集約する都市構造です。拠点での人口密度が高いため、店舗が活気づき、すべての世代が街で元気に暮らせます。公共交通網が整理されて利用者が増え、行政サービスを集約できるため市の財政も効率化します。都市をコンパクトにすることで、少子・超高齢化社会でも、魅力あふれる都市が形成できるのです。

コンパクト・エコシティでは公共交通が主役

高齢後の自動車運転には、様々なリスクがともないます。そのため、少子・超高齢化社会では公共交通の充実が課題のひとつです。高松市が目指す多核連携型コンパクト・エコシティでも、公共交通を再構築し、誰もが移動しやすい環境を整えていきます。その施策の一貫として、新駅の設置やコミュニティバスの運営などに、すでに着手しました。また、公共交通ネットワークの再編や新交通手段（LRT：次世代型路面電車）の導入も検討しています。少し未来の高松市では、公共交通が移動手段の主役になります。

公共交通は不便。だから変えていきましょう

公共交通は車より不便だと感じている人が多いのではないのでしょうか。はい、現状ではそのとおりです。でも、みんなが使えば使うほど、より便利に変えていくことができるのです。

少しだけ未来の交通のことを想像してみてください。もしかしたら石油が枯竭し、ガソリン代が上昇。自家用車での移動が限られた人だけのものになっているかもしれません。また、年齢を重ねて自動車の運転そのものが難しくなっている人もいるでしょう。そうなった場合、公共交通が不便な社会で豊かに暮らすことができるでしょうか。

利用者が増えれば増えるほど、公共交通は利用しやすくなります。つまり、みんなで育てることができるのです。今のうちから積極的に公共交通を利用しましょう。そして、自動車がある、公共交通もある、両方を当たり前のように選べる社会を継続していきましょう。

移動手段が変われば、街の未来が変わる

公共交通を維持・実現するための取り組みを「モビリティ・マネージメント」と言います。聞き慣れない言葉だと思いますが、「過度に自動車に頼る暮らし」ではなく、「公共交通や徒歩・自転車などを賢く利用する暮らし」を目指すことです。これからの持続可能な社会のために、市民ひとり一人が始めるモビリティ・マネージメント。あなたの移動手段が変われば、街の未来が変わります。



エコ通勤のメリット①

経済的である

公共交通機関や自転車などを活用する通勤(=エコ通勤)は、マイカー通勤よりも経済的です。というのは、自動車は保持しているだけで維持費がかかります。エコ通勤を実践して、自家用車を持たないという選択をすることで、家計に大きな差が生まれます。

<仮定>自家用車の維持費



- 自動車ローン:月15,000円
- 駐車場代:月5,000円
- ガソリン代:月10,000円
- 自動車保険:年50,000円
- 車検費用:(1年あたり)50,000円

年間支出額:460,000円

仮に通勤定期券が月額1万5,000円とすると、年間で18万円。自動車の維持費との差額は年間で28万円になります。自家用車がないことで不便になるシーンはあると思いますが、どうしてもクルマが必要な場合はタクシーを使う方法もあります。上記の例では、もし月額2万円ほどタクシーに使ったとしても、年間の支出額はお得になります。エコ通勤は、家計のエコにもつながるのです。

エコ通勤のメリット②

時間を有効に使える

最近ライフワークバランスが大切にされています。ライフワークバランスとは、仕事と生活の調和のこと。やりがいを持って働くとともに、家庭や地域での生活も充実させようという考え方です。仕事と生活のバランスをとるには、エコ通勤はとても有効的です。まず、時刻表にあわせて動くので、生活全体に一定のリズムが生まれます。帰宅時間についても、時刻表が優先されます。時間に合わせて仕事を終わらせようという意識が働き、つい伸びがちな残業を減らすことができます。

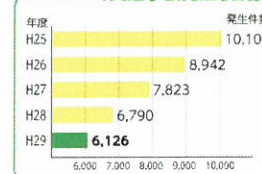
また、エコ通勤なら、通勤中の時間もちょっとした自由時間になります。本を読んだり、音楽を聴いたり、スマホでニュースや情報を集めたり。移動中にリフレッシュできれば、プライベートの時間がさらに充実するはずです。

エコ通勤のメリット③

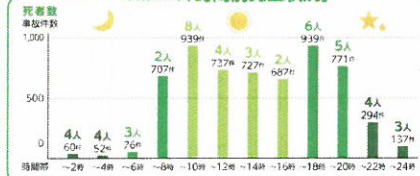
安全である

マイカー通勤の方は多いと思いますが、公共交通機関を利用するエコ通勤に比べると、交通事故に遭遇するリスクが高くなります。香川県警察の「交通事故発生状況」資料によると、過去5年間で事故の件数は減少傾向にありますが、それでも平成29年の交通事故発生件数は6,126件。県内だけで1日あたり16件以上の交通事故が発生しています。

平成29年「交通事故発生状況」



平成29年「時間別発生状況」



また時間別の事故の発生状況を見てみると、朝の8時~10時、夕方16時~18時の件数が飛び抜けています。この時間は、まさに出勤・帰宅時間です。もし多くの人がエコ通勤を始めれば、交通事故の件数も少なくなるのではないのでしょうか。

エコ通勤のメリット④

社会全体への好影響

エコ通勤を考えると、「もっと便数が増えればいいけど」「うちの近くに駅やバス停がない」などの声が聞こえてきます。今より多くの人が公共交通を利用するようになれば、これらの問題は自然と解決されます。逆に、もし公共交通を利用する人が減少すれば、便数や交通網はどんどん衰退し、クルマに乗れないお年寄りや学生にしわ寄せがいきます。

ひいては将来、自分が高齢者になって困ることもなりかねません。だから、エコ通勤と便数などの利便性の関係は「卵が先かニワトリが先か」という話ではないのです。自分たちの未来のために、今何をするかという話です。

「過度に自動車に頼る暮らし」ではなく、「公共交通や徒歩・自転車などを賢く利用する暮らし」が実現できれば、公共交通機関が発達し、時間通り快適に移動できるようになります。渋滞が大幅に緩和し、交通事故が減少し、地球環境への負荷も減るでしょう。自分自身へのメリットと、社会全体のメリット。その両面から、エコ通勤をぜひ前向きに考えてください。

未来の高松市は ここが違う

未来の高松市の想像図には、今の暮らしと少し違うところがあります。公共交通が移動手段の中心となり、街の様子が変化しました。未来の高松市のポイントを見てみましょう。

①新しい駅ができている



未来の高松市は、駅を中心とする街になっています。新しい駅が増えて、鉄道での移動がもっと便利になっています。駅の周りに、人も店も集まる、コンパクトな街になるのです。

②駅前の変化

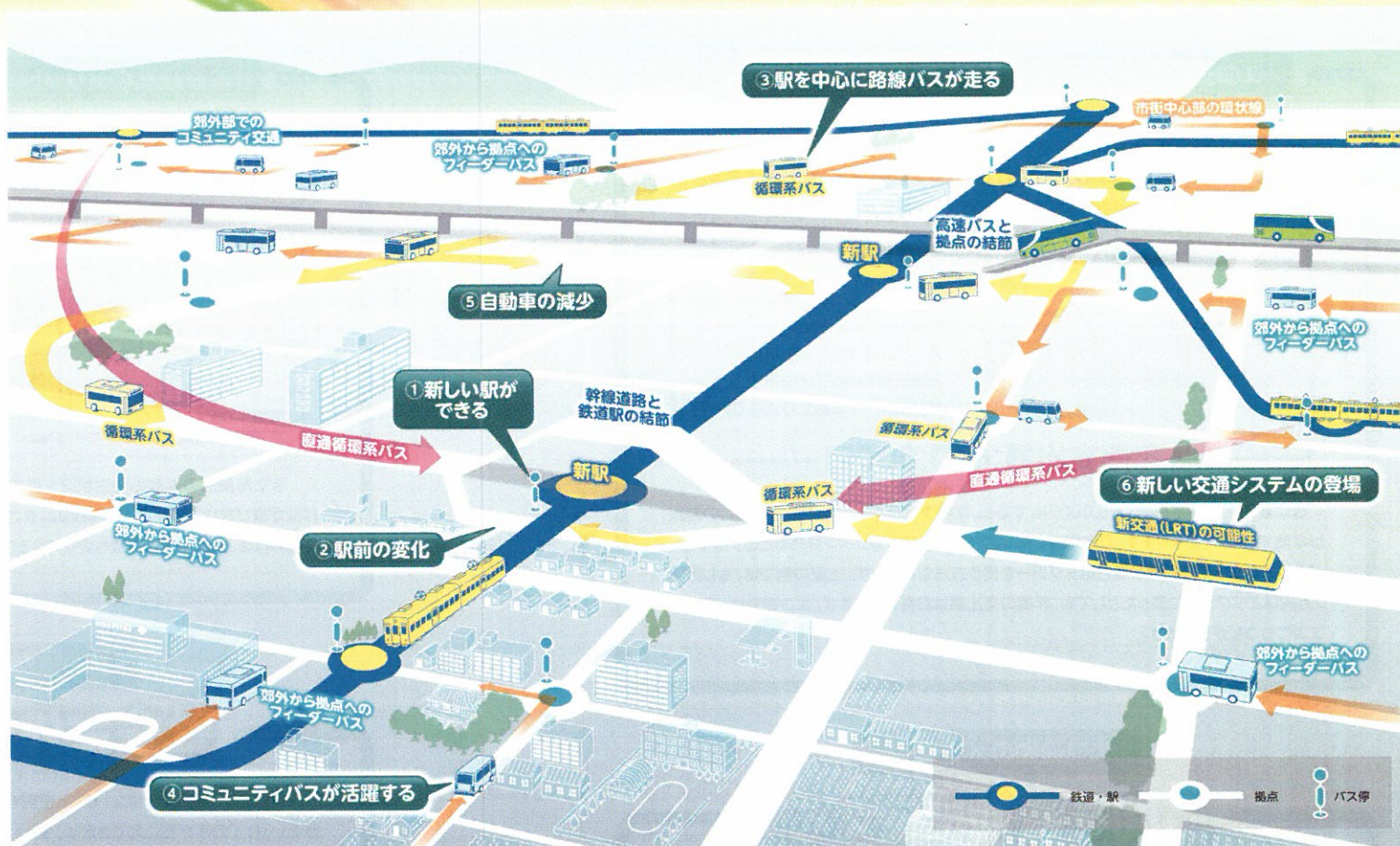


駅前が暮らしの中心地となります。バスのロータリーや自転車置き場などが整備され、店舗や会社、病院なども集まり、今よりもっと賑わう場所になっています。

③駅を中心に路線バスが走る



駅を中心にして、路線バスや循環バスが街の中を走っています。付近に暮らす人は、賑わう駅前などへの移動や、通勤や通学にバスを利用するようになります。



④コミュニティバスが活躍する



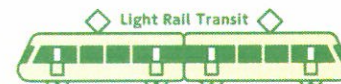
離れた地域に暮らす人は、コミュニティバスを利用して、駅前などまで移動しています。コミュニティバスは地域のための小型バス。地域の人に合わせてバス停や時刻表を設定できるので便利です。

⑤自動車の減少



自家用車を利用する人が少なくなり、街を走る自動車が減少しているでしょう。悩まされていた渋滞が少なくなり、緊急車両もスムーズに移動できます。交通事故も減って、安全に暮らせるようになります。

⑥新しい交通システムの登場



公共交通を利用する人が増えれば、LRT(次世代型路面電車)のような新しい交通システムが導入されているかもしれません。LRTは専用の線路を走るので渋滞知らず。乗り降りがしやすいので高齢者にもやさしい乗り物です。



高松市

移動手段が変われば 街が変わる

どうなる未来の交通!

Compact + Network

地域を救うのは
コミュニティバス

Mobility Management Takamatsu

公共交通機関 検索サイトのご案内

J R 線・新幹線 JR四国 <http://www.jr-shikoku.co.jp/>

Google検索 jr四国

路線・運賃・時刻表・きっぷ予約

ことでん〈電車・路線バス〉 ことでんグループ <http://www.kotoden.co.jp/>

Google検索 ことでん

電車／路線・運賃・時刻表
路線バス／路線図・運賃・時刻表

都市間高速バス 発車オーライネット <https://secure.j-bus.co.jp/>

Google検索 発車オーライ

全国高速バス路線／運賃・時刻表・バス予約

制作：高松市 市民政策局 コンパクト・エコシティ推進部 交通政策課



高松市

Railway



Light Rail Transit



Community Bus



高松市が目指す多核連携型コンパクト・エコシティ

日本は人口が減少し、少子・超高齢化社会へと移行しつつあります。高松市の状況も同じで、もはや樂觀することはできない差し迫った問題です。少子・超高齢化社会でも、将来にわたって持続可能な街づくりとは何か。その答えとなるのが「多核連携型コンパクト・エコシティ」です。

高松市では、郊外の土地開発により人口密度の低い、分散型の都市構造が進んでいます。

分散したまま人口が減少すれば、空き地が増え、店舗の撤退や縮小が進み、利用者の減少によって公共交通が縮小し、税収の落ち込みにより行政サービスは悪化します。

高松市が目指している多核連携型コンパクト・エコシティは、市街地の拡大を抑制し、いくつかの拠点に人口と都市機能を集約する都市構造です。拠点での人口密度が高いため、店舗が活気づき、すべての世代が街で元気に暮らせます。公共交通網が整理されて利用が増え、行政サービスを集約できるため市の財政も効率化します。都市をコンパクトにすることで、少子・超高齢化社会でも、魅力あふれる都市が形成できるのです。

コンパクト・エコシティでは公共交通が主役

高齢後の自動車運転には、様々なリスクがともないます。そのため、少子・超高齢化社会では公共交通の充実が課題のひとつです。高松市が目指す多核連携型コンパクト・エコシティでも、公共交通を再構築し、誰もが移動しやすい環境を整えていきます。その施策の一貫として、新駅の設置やコミュニティバスの運営などに、すでに着手しました。また、公共交通ネットワークの再編や新交通手段(LRT:次世代型路面電車)の導入も検討しています。少し未来の高松市では、公共交通が移動手段の主役になります。

公共交通は不便。だから変えていきましょう

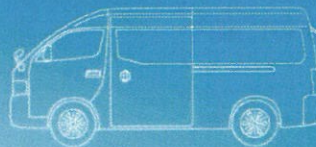
公共交通は車より不便だと感じている人が多いのではないのでしょうか。はい、現状ではそのとおりです。でも、みんなが使えば使うほど、より便利に変えていくことができるのです。

少しだけ未来の交通のことを想像してみてください。もしかしたら石油が潤渇し、ガソリン代が上昇。自家用車での移動が限られた人だけのものになっているかもしれません。また、年齢を重ねて自動車の運転そのものが難しくなっている人もいるでしょう。そうなった場合、公共交通が不便な社会で豊かに暮らすことができるでしょうか。

利用者が増えれば増えるほど、公共交通は利用しやすくなります。つまり、みんなで育てることができるのです。今のうちから積極的に公共交通を利用しましょう。そして、自動車がある、公共交通もある、両方を当たり前のように選べる社会を継続していきましょう。

移動手段が変われば、街の未来が変わる

公共交通を維持・実現するための取り組みを「モビリティ・マネージメント」と言います。聞き慣れない言葉だと思いますが、「過度に自動車に頼る暮らし」ではなく、「公共交通や徒歩・自転車などを賢く利用する暮らし」を目指すことです。これからの持続可能な社会のために、市民ひとりと一人が始めるモビリティ・マネージメント。あなたの移動手段が変われば、街の未来が変わります。



コミュニティバスが地域を支える。

コミュニティバスは、路線バスではありません。路線バスの運営・持続が難しい地域において、マイクロバスなどを利用して主要な駅などへ結ぶ交通手段です。人口減少が進む地方都市では、ますます活躍が見込まれています。注意点としては、地域のためだけの交通手段なので、持続可能な導入計画をすることが求められます。

コミュニティバスの特性①

自由なバス停

コミュニティバスは、地域で導入する交通機関です。地域の人々が利用しやすいバス停を設定することができます。といっても、すべての人の家の前で停まることはできません。みんなが自分の都合を少しずつ譲り合って、ちょうどよいバス停を考えましょう。

コミュニティバスの特性②

時刻表・路線の融通

コミュニティバスは路線バスではないので、時刻表についても地域の人みんなで話し合って決められます。例えば、朝と夕方を多めに走らせたり、特定の曜日は〇〇病院に立ち寄り、などの設定もできます。たくさん走らせるほどコストがかかり、維持が難しくなるので、できるだけ少なく、かつ不便のない時刻表を考えましょう。

コミュニティバスの特性③

安全である

近年、高齢ドライバーの事故が増えています。高齢になればなるほど、判断力が遅くなるのは誰でも同じ。自家用車は便利な半面、常に事故の危険がつきまといます。

コミュニティバスでの移動に切り替えることで、自分も家族も、万が一の事態に遭遇する可能性を小さくすることができます。

コミュニティバスの特性④

経済的である

自家用車は、保持しているだけで維持費がかかります。下記は一例ですが、1年間で46万円の支出が必要です。

<仮定>自家用車の維持費

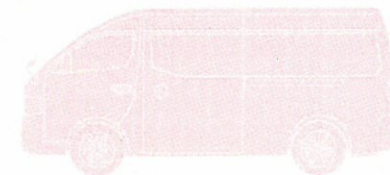


- 自動車ローン:月15,000円
- 自動車保険:年50,000円
- 駐車場代:月5,000円
- 車検費用:(1年あたり)50,000円
- ガソリン代:月10,000円

年間支出額:460,000円

コミュニティバスなら…

<一例>コミュニティバス運営費



- 1回あたり利用料金 片道200円／往復400円
- 1カ月に15回往復利用(年間180回)

※あくまで一例です。料金等は地域の運営状況により変わります。
※バスの運営には税金での補助が含まれます。
皆様の税金により低運賃での運営が可能になっています。

年間支出額:72,000円

思い切って自家用車を手放し、コミュニティバスでの移動に切り替えることで、家計への負担が軽くなります。

コミュニティバスを 持続するために必要なこと。

便利なコミュニティバスですが、上手に運営しないと持続させることができません。
コミュニティバス持続のためのポイントを知っておいてください。

1. まずは話し合いの場所を設ける

コミュニティバス導入にあたっては、地域の人みんなで知恵を出し合って、利用しやすいバス停や時刻表、料金などを決める必要があります。まずはコミュニティバスについて、みんなで話し合う場を設けましょう。

2. 維持費をどうするかを決める

コミュニティバスは、地域の人のためだけに走らせるので、維持費は地域の人が負担します。その方法はいくつかあり、運賃という形で支払う方法もあれば、みんなで協賛金を出して維持することもできます。誰もが納得できる方法を考えましょう。

3. みんなが乗る仕組みを考える

コミュニティバスは利用が増えれば増えるほど、持続が容易になります。習い事のグループを作ってみんなで利用する、買い物の時間を合わせて利用するなど、少しでも利用が増えるように自由な発想で運営方法を考えましょう。

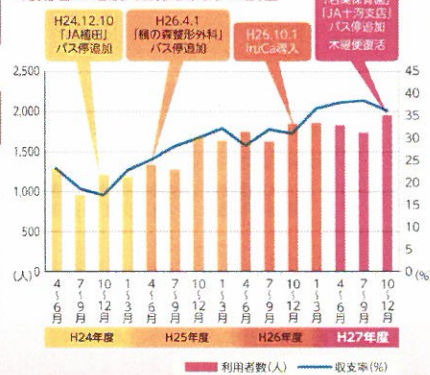
コミュニティバス運営事例 山田地区乗合タクシー「どんぐり号」

地域*の主導により、
運行ルート及びダイヤの見直し検討等
※山田地区乗合タクシー実行委員会

利用者の増加
及び運行収支率の改善



グラフで見る
利用者の増加・運行収支率の改善



コミュニティバスは地域の財産。

みんなで守りましょう

コミュニティバスは、地域の活性化に欠かせない存在です。バスの中ではコミュニケーションが広がり、一体感も強まります。

しかし、利用者が少なければ運営を続けることができない現実があります。ですので、地域の人みんなですべてを支えていきましょう。

今必要な人も、そうでない人も、コミュニティバスを地域全体の財産だと捉えて、みんなで積極的に利用することが大事です。

導入・運営にあたっては、運賃のことや路線のことなど、考慮すべきことがたくさんあります。発想の柔軟な若い人の意見が大きな力になります。自分の父母のため、また将来の自分のためにも積極的に参加してください。

今は他人事でも、10年後、20年後は自分のことになります。先のことまで見越して、地域一丸となってコミュニティバスを守りましょう。



山田地区乗合タクシー「どんぐり号」